

【演題】

ST 上昇型心筋梗塞症例に対するスタチンを用いた脂質低下療法導入後の LDL-C 値の推移

【共同演者】

谷垣 雄都<sup>1)</sup>、寺崎 展幸<sup>1)</sup>、汐谷 恵<sup>1)</sup>、山本 裕之<sup>2)</sup>、本間 久美子<sup>1)</sup>

1) 兵庫県立姫路循環器病センター 薬剤部

2) 兵庫県立姫路循環器病センター 循環器内科

【発表形式】 ポスター発表

【目的】

急性冠症候群 (ACS) 発症後にはスタチンを用いた脂質低下療法 (低比重リポ蛋白コレステロール (LDL-C) < 70mg/dl) が推奨されている。しかし、ST 上昇型心筋梗塞 (STEMI) 症例に脂質低下療法導入がなされても、目標未達成例が散見される。未達成例の頻度及びエゼチミブ併用といった治療の強化が必要な症例の特徴は不明であるため、当院における STEMI 治療後の LDL-C 値の推移を後ろ向きに調査することとした。

【方法】

2019 年 4 月から 6 月までに当院に入院した STEMI 症例を対象に、新規にスタチンを用いた脂質低下療法導入後 6 ヶ月時点における LDL-C 値の推移を調査した。また、LDL-C < 70mg/dl 達成群と未達成群に分類し、発症時及び発症後 6 ヶ月時点の LDL-C 値を含めた冠危険因子及びエゼチミブの併用について調査した。

【結果】

対象症例は 15 症例で、脂質低下療法導入により LDL-C 値は  $51.7 \pm 10.2\%$  低下した。達成群は STEMI 発症時の LDL-C 値が低値な傾向であった (達成群  $121.9 \pm 37.5$ mg/dl、未達成群  $160.3 \pm 35.4$ mg/dl、 $p=0.06$ )。エゼチミブ併用群ではより強い LDL-C 値の低下 (併用群  $60.5 \pm 8.7\%$ 、非併用群  $48.6 \pm 8.7\%$ ) が確認された。また、STEMI 発症時に糖尿病コントロール不良例 ( $HbA1c \geq 8\%$ ) は全例 ( $n=2$ ) 6 ヶ月後の LDL-C 値が目標未達成であり、12 ヶ月以内に再血行再建術が施行されていた。

【考察】

STEMI 症例に対する脂質低下療法新規導入後 6 か月時点で目標未達成の症例は、導入前の LDL-C 高値である症例やコントロール不良な糖尿病を併発している症例に多かった。エゼチミブ併用群ではより強い脂質低下効果がみられたことから、上記のような症例に対しては初期からエゼチミブ併用を含めた積極的な脂質低下療法を行う必要があることが示唆された。